

令和6年度第2回日の出町総合教育会議 議事録

- 1 開催日 令和7年2月27日(水)
- 2 開催時間 午後4時32分
- 3 終了時間 午後5時57分
- 4 場所 教育センター2階 多目的会議室
- 5 出席者
町長 田村みさ子
教育長 平崎一美
教育委員長職務代理者 浜松裕子
教育委員 古山吉利
教育委員 高野泰弘
教育委員 野口純子
- 6 説明員
学校教育課長 萩原哲
指導室指導主事 長保雄一
福祉課長 関谷好史
子ども家庭センター所長 田中雅司
- 7 事務局職員
企画財政課長 木崎義通
企画財政課企画係長 湯本洋和
企画財政課企画係 石川敬大
学校教育課庶務係長 清水強

令和6年度 第2回日の出町総合教育会議 議事録

令和7年2月26日（水）
午後4時32分～午後5時57分
教育センター2階 多目的会議室

1 開 会

木崎企画財政課長

只今から、令和6年度第2回日の出町総合教育会議を開会いたします。私は、事務局の企画財政課長木崎でございます。よろしくお願い申し上げます。この会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4」の規定に基づき設置される会議で、構成員は、町長及び教育委員会で町長が招集することとされております。

なお、本日はオブザーバーとして、三輪副町長が本会議に出席しておりますので、ご報告申し上げます。それでは次第によりまして進めさせていただきます。次第の2町長挨拶、田村町長よりご挨拶申し上げます。

2 町長挨拶

本日は大変お忙しい中、そして教育委員会も開催されたということでお疲れのときに、令和6年度第2回日の出町総合教育会議にご出席くださいまして、ありがとうございます。本日は、令和7年第1回議会定例会の初日でございます。7年度の予算が上程され、施政方針も発表いたしました。本日の総合教育会議につきましては、教育ビジョン2023の取組状況やコミュニティ・スクールについて等、多くの議題があがっております。有意義な会議になることを期待しております。どうぞよろしくお願い致します。

3 報告事項

（1）日の出町教育ビジョン2023における取組状況【指導室】

長保指導主事より資料に則り報告

（2）コミュニティ・スクールについて【指導室】

長保指導主事より資料に則り報告

（3）日の出町におけるいじめの状況等【指導室】

長保指導主事より資料に則り報告

（4）日の出町における不登校の状況等【指導室】

長保指導主事より資料に則り報告

平崎教育長

教育ビジョンを策定して3年、私が今一番思っているのは、町の方にどこまで伝わっているか。学校関係者や保護者、支援員には、子どもの様子や授業の様子を見て、段々とわかってもらえているかなと思います。ただ、あまり関わりがないところには、一生懸命周知はするのですが、どこまで届いているのかなと。

濱松委員

地域の方たちと話す機会がなかなかないのですが、子どもがいないご家庭にとっては伝わっていない部分も大きいのかなと思います。教育ビジョンと聞くと、どちらかというと学校中心と思ってしまう。本当は社会教育や文化スポーツなども入っているが、そこまで伝わっているかどうかという疑問はあります。

平崎教育長

そういったことも踏まえて、私としてはこの事業をどう評価していくかにかかっていると思っている。いわゆる定量的評価として、どのくらい実践が進んだのか、保護者や地域にどれだけ周知ができたのか、「共に学び支えみんなでつくる教育の機会」がどれだけあったのかという、量的な評価ってしやすいんですが、形成的評価という、子どもにどのような変化があったのか、大人の学びや生活が充実して、人と人との関わりが強くなったかというような、効果をどう計っていくかということも行っていかななくてはいけない。やりっぱなしではダメかなと思います。

古山委員

10年前と比較した場合に、ものすごくいろいろな対応策が取られていると思います。別室支援等、各学校の課題を持つ児童・生徒に対する対応についても含めて。それを10年前と比較したときに、現状に効果があるのか、年々なんとなく増加しているのでは、という実感がある。対処について一生懸命やっていたけれど、本質的な部分でまだ十分ではない部分があるのではないかな。

一つは人とのつながりの問題、こちらは教育ビジョン 2023 で大きく取り上げて、進めているところだと思います。それから、子どもたちへのいじめはよくない、してはいけないというような生き方の指導、子どもの中に本質的に、仲間を大切に思う気持ちや自然にお互い相談をしたり、より良い価値あるものをみんなで作っていきこうといったような、そういったことの掘り起こしが十分ではないのではないかと考えます。

教育ビジョンが保護者以外の地域の人たちにどれだけ伝わっているかについてですが、広報や刊行物は読まない人は読まないです。一生懸命やってる割に浸透していない、知らないという現実があるように思います。

濱松委員

以前に比べ、一人ひとりへの支援が行き届いているなというのが最近の学校の様子だと思います。支援教育や、居場所づくり等、教育自体が変わってきたなと実感します。ですが、お子さんがいない家庭に伝わっているかということ、どうなんだろうなという印象です。関わっている人以外は知らないのではないかな。町全体で育てていくという意識を共有するために、引き出していくにはどうしたらいいかというのが課題なのではないでしょうか。一緒にやりましょうと言われるだけでは、何から始めたらいいかわからないのでは。

古山委員

中心の地域に比べれば、日の出町は住民の意識やつながりが強いと思います。それでも最近では、個人情報の取り扱い等のために関わりが減り、教育としてのみんなで育てる意識以前に、住民同士のつながりがそもそも弱くなっていると感じます。

そういった地域の関わりを増やすという意味で考えると、コミュニティ・スクールの運用は、地域の人が学校に関わりやすい、または地域を通して教育の場を語るには、良い投げ掛けではないかなと思います。

田村町長

町民のつながりはある方だと感じています。子ども食堂等も地域の方がたくさんいらっしや

っています。そういったつながりに、子どもたちはセーフティネットのように守られていると私は思います。ただ、世代の違う方との交流は難しいかと思います。若い方でもいろいろなことに興味を持っていただき、お互いに手を伸ばし合うことによって、より豊かなつながりが築けるのではないかと思います。またそういった機会を作っていかなければなりません。

濱松委員

幼児からお年寄りまで関われるような、世代を超えてのコミュニティが必要だと思います。小さいところでも増やしていけたら良いと思います。

田村町長

具体的に会える場所を提供して実施するとより実感ができると思います。子どもたちがそういった場所で大人たちを見ることもとても大事です。いろいろな機会を作っていけたら良いですね。

平崎教育長

人はさまざまなところで気づきや学びを得ています。一人でやって気づくこともあれば、人に気づかされることもある。日の出町はそれがいろんなところに点在している。時間はかかるが、それぞれが線でつながり、奥行きが出てくると思います。今、教育を学校教育で語りがちになっている。生涯学習や社会教育等に焦点を当てながら、世代間交流に力を入れる必要があるかなと思います。

もう一つは、教育ビジョンと就学前教育についても考えていかなければいけないと思います。幼保少連携についても舵を切ってやり始めている。

高野委員

コロナで学校に人が入れなくなっている。体験を共有することで伝わることも増えていくのではないかと思います。一般の方の教育に対する敷居が高いのではと感じます。一緒に学ぼう、学ぶ機会を作ろうということで周知していくとより伝わりやすいのではと、お話を聞いていて感じています。

今、幼児教育では「探究」という、一度の探検で終わらず、その中で発見したことを突き詰めていく、興味を示したものを継続して行っていくといったような、学びのプロセスを大事にしています。東京都の施策展開もある中で、各学校の取組を見てみると、体験で終わっていて、探究の部分があまり感じられないと思いました。子どもたち自身がプロジェクトを行い、その中で学びや気づきを得る。そういったことが必要なのではないかと思います。地域の方が長期的に関わるような、やれる部分はあると感じています。

田村町長

変化、成長を感じることが教育に関わる醍醐味の一つではないかと思います。地域の大人が関わる時に、一つひとつの行事をこなすということではなく、長期的な付き合い方をしていくことで、子どもが成長する姿を見ることができ、大人にとっての喜びになると思います。教育者にとっては当たり前の考え方かもしれませんが、一般の方たちにも波及したら面白いなと思います。

平崎教育長

家庭教育は教育の原点と言われています。幼児教育はその先の学校教育等につながっていく出発点だと言われたりもします。そういうものが何かというのを知るよりも、子どもとの関わりで実感することで、大人にとっても気づきがあるのではないかと思います。そこから、ご高齢の方と昔遊びなどで新たに関わり、今度はそれを子どもたちが大人になったときに伝えていく、そういった学びの循環が好循環になれば良いなと思います。

野口委員

コロナの期間中、イベントや事業に参加できないために孤立の子育てになってしまい、教育力が下がっているのではと思います。健診等の事業で関わりが生まれることもないので、周りで誰も教えてくれない、情報が少なくなっているのではと感じます。教職員も、家庭も以前とは違ってきている。世代間でのギャップも少なからずあるので、今までのやり方、対応では難しいのかとも思いますが、最低限の基準は揃える必要があるのかなと感じます。

小学生になったときの準備をするため、幼稚園・保育園と小学校間で情報共有を図り、連携を取ることが大事になるのではと思います。架け橋プログラムも大事だと感じます。

古山委員

就学前体験をどのように深めていくか、体験だけで終わらず、その先まで考えるということについては、まだ検討の余地があると思います。

平崎教育長

子どもの成長を、施設で区切ってしまうとギャップや差が出てきてしまう。学びや成長は続いているので、教育ビジョンについても、幼・保・小・中で一貫して連携するという考え方ができると良いと思います。

そこに虐待等の福祉とどのように連携していくかというのも検討していく、大事な時期だと考えております。

(5) 日の出町子ども・子育て支援事業計画（第三期）について【福祉課】

関谷福祉課長より資料に則り報告

平崎教育長

教育はサービスではないが、供給量を担保するには限界があります。質をどうやって向上させていくかが、これからの自治体の教育に問われていくことになると思います。そういった意味では、教育と福祉の融合融和は大事になると思います。

高野委員

第二期から関わらせていただいておりますが、中間見直しをぜひお願いしたいと思っています。世の中がどんどんと変わっていく中、アンケートの項目から様々な内容を考えていかなければならないと思います。カラーにしたり、イラストを差し込んだり、見る人を増やす努力も必要だと思います。

(6) 日の出町子育て応援ガイド2025の発行について【こども家庭センター】

田中こども家庭センター所長より資料に則り報告

高野委員

様々なメニューや幼児施設などとのつながりを作り、養育家庭の力が落ちているところをつなげたり、しゃべることができる関係を築いていけるのは、こども家庭センターだけのように思います。そういったところを期待しております。

(7) その他

木崎企画財政課長

本会議は例年2回開催しております。次回は令和7年の5月を予定しておりますので、ご承知おきいただければと思います。

4 閉 会

木崎企画財政課長

皆様ありがとうございました。最後に田村町長から会議の総括を申し上げます。

田村町長

長時間にわたり、大変お疲れ様でした。改めて、いじめの問題について町が果たさなければならぬ役割というものを再度確認いたしました。しっかりと連携をとっていかなければいけないと思っております。コミュニティ・スクールについてもまだまだ話を深めたいと思います。今はSNSのトラブル等、大人でもわからないケースがあるかもしれません。どうやって入り込んでいくのか、新しい情報があれば教えていただきたいと思います。不登校が増えていることについても、子どもアドボケイト等の新しい取り組みを町として勉強して力になればと思います。

子ども・子育て支援事業計画や応援ガイドの作成についても、町が行っていることを伝えるときの資料となれば良いかなと思います。子育てを応援しているということが伝わり、町の魅力になれば良いです。

子どもを中心に、教育委員会、そして町の福祉、いろいろな部署や事業がつながり、子育てしやすい、住んでいてよかったなと思える素敵な町にしていきたいと思っております。引き続き、教育ビジョン2023についても進捗状況を教えていただければと思います。ありがとうございました。

配布資料

- 【資料1】 R6 第2回総合教育会議説明資料【報告事項（1）～（4）】
- 【資料2】 日の出町教育ビジョン 2023（概要版）
- 【資料3】 日の出町コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）リーフレット
- 【資料4】 日の出町いじめ防止基本方針
- 【資料5】 いじめの重大事態の調査に関するガイドラインの改訂版（概要）
- 【資料6】 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLO プラン」（概要）
- 【資料7】 夏季研修案内
- 【資料8】 第3期_日の出町子ども・子育て支援事業計画
- 【資料9】 第3期_日の出町子ども・子育て支援事業計画（概要版）
- 【資料10】 日の出町子育て応援ガイド 2025